JFE エンジニアリング株式会社横浜本社

事業所敷地面積約 420,000 平方メートル　緑地面積約 41,000 平方メートル
調査地は約 2,300 平方メートルの「JFE とんぼみち」と呼ばれる一般に公開された場所。地域の人たちによる「トンボみちファンクラブ」があり、自然と親しむ場ともなっている。

お話を伺った方　土屋朝司さん　永沼孝臣さん　元村朋子さん　浜口敬三さん　＝J
インタビュアー　マルタンヤンマ＝M

※マルタンヤンマ…大型でコバルトブルーの複眼（オスのみ）が特徴の美しいヤンマ。今年久しぶりに「JFE トンボみち」に出現！

「生物多様性日本アワード」の反応は？

M 昨年は久しぶりに「JFE トンボみち」におじゃましたら、みなさんに喜んでもらえました。

J 大型できれいなマルタンヤンマは人気者ですからこちらもうれしかったです。

M 「生物多様性日本アワード」優秀賞の受賞というニュースもありましたね。

J はい、フォーラムでの活動は当社の CSR（企業の社会的責任）の一環として取り組んでいるわけですが、その活動が対外的に評価されたことは喜ばしいですね。

もともと「JFE トンボみち憲章」にもあるように、自然との共生や生物多様性の保全、地域のオアシスを目指して行っている場所であり活動なので、やってきたことが評価されたと感じています。

M 社員の方にも「JFE トンボみち」はおなじみなのでしょうか？

J 事業所からは少々距離がある関係で、社員はなかなか休憩時間にも足を運べないのですが、地域の方々を中心とした「トンボみちファンクラブ」のみなさんが野菜や花を育てたり、掃除をしたり、散歩に訪れたりと盛んに利用してくださっています。地域と当社をつなぐ場所にもなっています。

M 毎年「生きもの観察会」なども開いていらっしゃって、たくさんの子どもたちもやってきますね。

J そうですね、観察会は鶴見区の区報でもお知らせしているので、たくさんの方においでいただいています。そのときには当社社員も子どもを連れて来ています。

管理の苦労などはありますか？

M 私たちトンボにはとても過ごしやすい場所ですが、環境を保つためにご苦労などありますか？

J 実は年間を通じてさまざまな管理を行っていますよ。まず、トンボ池は止水型のビオトープなので雨以外の水の流入がありません。さらに、電源などのインフラもありません。工業用水を地下タンクに貯めているんですが、年に 6 回ほど散水車で水を運んで水量を保っているんですよ。タンク内の洗浄も行っています。とにかく、緑があり、トンボのみなさんが飛んできて、たくさんの生きものがいる環境を保ち、訪れる方々に楽しんでいただけるような管理を心がけています。

M そんなにまでしていただいてありがとうございます！

マルタンヤンマ（メス）　写真提供：石川一

企業同士のつながりは？

M フォーラムの活動を通じて京浜臨海部のほかの企業ともつながりができましたか？

J そうですね、つながり自体はいろんな形であるんですが、その 1 つとしてフォーラムに参加している企業同士のつながりもできましたね。
当社が行っている「生きもの観察会」には以前、マツダ（株）の担当の方が見学にいらっしゃって、マツダさんでの観察会での参考にしていただいたようです。

M 横のつながりできるのは良いですね。では今後も池におじゃましますので、どうぞよろしくお願いします。